

「自閉症」のわが子。 学習によって ここまで成長した。

市の療育センターで「自閉症」と指摘されたのが3歳3か月。発語がなく、強い執着や多動、奇声、癪癥など、わが子のさまざまな問題行動に両親は悩み続けました。勝手に自宅を飛び出し、4車線の大通りを横断しようとしたことも。

対応策を求め図書館などで情報を探すうちに、学習をきっかけに変わり得る可能性を知り、以降、片道2時間電車に乗って週1回の指導を受ける生活がスタート。

言葉で「してはいけないこと」「しなければならないこと」を伝える指導と家庭学習への適切なアドバイスによって、親のやるべきことが明確になりました。

親が変わることによってYくんも変わりました。自分の弱点を自身の力で乗り越えようと頑張っています。

連続
セミナー

第27回

実例から知る、 「発達の遅れ」が気になる 子どもの教え方

開催日時／7月30日（土）

9:30～11:45（受付開始 9:15～）

会場／川口駅前市民ホールフレンディア

（キュボ・ラ4階JR川口駅東口すぐ）048-227-7603

プログラム（対談形式）／

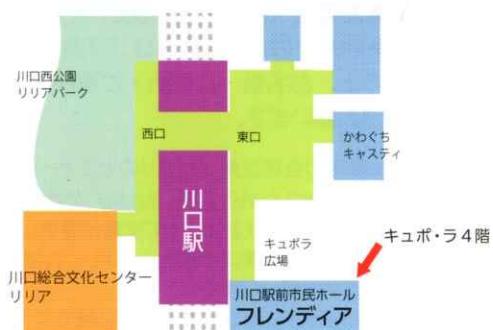
第一部
体験発表（中学1年生/男子の母親
Yさん）+進行・解説（河野俊一
さん）+質疑応答

第二部
河野俊一さんの
まとめ・提言

定員／50名

（対象＝保護者、教育・療育関係者、医療・福祉関係者、
市民など）

参加費／1,500円（資料代等）



後援

内閣府、文部科学省、厚生労働省

埼玉県、さいたま市、川口市

埼玉県教育委員会、川口市教育委員会、蕨市教育委員会、草加市教育委員会、越谷市教育委員会、北区教育委員会、豊島区教育委員会、足立区教育委員会、荒川区教育委員会、我孫子市教育委員会、埼玉県社会福祉協議会、川口市社会福祉協議会、埼玉県小児科医会

全埼玉私立幼稚園連合会、全国私立保育連盟



2022年度赤い羽根共同募金（埼玉共同募金会）助成事業

教育委員会からは特別支援学級を勧められたものの、少しづつ力をついているわが子を目の当たりにしていた両親はYくんを普通学級で学ばせる決意を固めます。入学早々、隣の席の子どもの顔を殴り、学校から呼び出されたこともありました。しかし、教室と家庭の学習を通して「しなければならないこと」「してはいけないこと」を学び、2年時には両親に向かって「その時は迷惑をかけてすみませんでした」と素直に謝るまでに。いまでは、一日の行動を親に報告したり、他人を思いやる言葉を発したり。3歳下の弟はYくんの姿を手本にするなど、家族関係も良い方向へ向かっています。

「今後も次々と悩みがでてくると思いますが、けっして諦めることなく、少しづつ歩んでいきたいと思います」とYさんは話します。



第24回セミナーの様子
(2021年12月18日 川口総合文化センター・リリア)

お申込み／事前申し込み制（定員になり次第、締め切らせていただきます）

▶当NPO法人のHPにアクセスいただき「申し込み専用フォーム」からお申し込みください。

教育を軸に

Q 検索

▶お電話（080-8726-1000）でも受け付けております。
▶FAXでのお申し込みは「7月30日セミナー参加希望」と明記の上、お名前・ご住所・ご連絡先を添えて、048-837-6926宛てFAX願います。

*通常の会場定員（机ありのセミナー形式の場合、81名）に対し、密集を避けるために定員（50名）での利用とします

*コロナ禍の状況によって定員が変更になる場合もあります

*感染防止対策にご協力ください（入場の際、手指の消毒、マスクの着用、検温をお願いします）

*申込み後に郵送される払込用紙でゆうちょ銀行の振替口座にお振ください

*PayPayでのお支払いを希望される方は申し込みの際にその旨をお伝えください（IDをお知らせします）

主催／特定非営利活動法人 Education in Ourselves 教育を軸に子どもの成長を考えるフォーラム（〒336-0026さいたま市南区辻5-6-12-408）



ホームページの
QRコードです

企画協力／エルベテーク（埼玉県川口市本町4-13-11 電話048-223-8224）

1996年、民間の教育機関エルベテーク設立。発達の遅れと課題をもつ子どものためのコースも開設し、現在に至る（埼玉／大阪／アメリカ）。

著書に『発達障害の「教える難しさ」を乗り越える』『自閉症児の学ぶ力をひきだす』（いずれも日本評論社）、『誤解だらけの「発達障害」』『子どもの困った！行動がみるみる直るゴールデンルール』（いずれも新潮社）など。2017年11月～2018年1月、『教育新聞』（教育新聞社）にコラム（10回）を連載。当セミナーをはじめ、講演会、研修会での講師多数。

*エルベメソッド

「まずしっかり見る、聞く姿勢を育てることが最優先」「関心のない物事に対しても注意を向けることができる姿勢づくり」など12項の具体的な教育方針と指導目標を掲げ、学習を通して子どもの成長をめざす指導法。特徴は「発達上の遅れを抱える子どももそうでない子どもも、身につけさせたい力は同じである。そして、その接し方・教え方、指導の仕方も原則は同じである」という考え方と、26年間の豊富な事例・実績に基づく実践。

連続
セミナー

第27回

実例から知る、 「発達の遅れ」が気になる 子どもの教え方

このセミナーから生まれた出版物

親が語る、「発達の遅れ」が気になる 子どもの教え方①

これまでセミナーで報告された対談形式の実例の中から7回分をピックアップし、1冊の本にまとめました。



発行＝当NPO法人 / 定価1,650円（税込）

力をひきだす、学びかたドリル①

「書く」からはじめるせん、すうじ・かず

「書く」と学び方にこだわった学習ドリルです。対象は就学前の幼児と小学生。

監修＝河野俊一

編集・発行＝当NPO法人 / 定価1,100円（税込）



書店やオンライン書店でお買い求めください。